

12月7日  
発売!  
最新刊



日々の暮らしが楽しくなる“made in UK”

# イギリス発 ストーリーのある モノと暮らし 井形慶子

井形慶子の新刊『イギリス発 ストーリーのあるモノと暮らし』(ボプラ社)は、これまでとは違って  
イギリスの“モノ”が主人公。モノにまつわる歴史やそれに関わった  
人々のストーリーを、2年間を費やして英国各地を取材して書き上げた一冊だ。

企画・構成・編集／本誌編集部、文／笹塚ジンタロー



生きしく、美しい写真も  
見どころのひとつ

ニットやシューズに家具、そしてお菓子のキャンディに至るまで。  
本書にはイギリス産のあらゆるもの登場する。そして、それが

どのような理由や環境で生まれたのか、どんな人がどんなふうにモノづくりに関ってきたのか、著

者・井形慶子自らが英国各地の工房に足を運び取材した膨大なインタビューと取材写真をもとに執筆されたモノ・ストーリー集である。

※

まず目を惹かれるのは写真の美しさだ。

スコットランドの荒涼とした空気もイングランドの農村風景も、年季が入ったニッティングマシンも、工房の隅に積まれた完成寸前の“モノ”たちも、そしてそこで一生を賭してモノづくりに励む職人たちの目尻に浮かぶ皺の一本一本でも。ただ本を開いているだけのはずの僕たちを、ページの

中に引きずり込むように迫つてく  
るのだ。この美しさ……ただ美し  
いだけじゃなく生きしさを内包し  
た美を、どう表現すればいいだろ  
う。

聞くところによれば本書のほぼ  
全ての写真は井形慶子本人、もしくは同行した「ミスター・パートナー」編集部員の手で撮影された  
ものだという。この本に限らず、  
彼女のフォトエッセイのほとんど  
がそのように制作されている。

単純に技術的なあれこれをいえ  
ば、きっとプロと名のつく人々に  
託した方が手堅いのだろうが、被  
写体となる英國について、何をど

う切り取れば良いかを著者たち以上に知悉している者はいない。  
ライターという仕事をする僕にはプロカメラマンの知人はとても多くて、彼らは皆とびきり美しい写真を撮るのだけれど、そのどれ多くて、彼らは皆とびきり美しい写真を撮るのだけれど、そのどれよりも本書の写真は際立つて存在感がある。物言う写真、なのだ。

著者の文章とあいまって、モノたちにまつわる歴史やストーリーが  
ぐんぐんと語りかけてくる。

手仕事を感じる日々  
使い込む喜び

井形氏はかつてインテリア誌の



スタイルリストをしていた時代があ  
るそ�だ。

「ここに赤いブツがある  
と締まるんだけどな」

撮影でキメのショットをもたらすのは、モデルのプロポーションでも微笑でもなく、たいていは背景のちょっとした小物づかいであることを経験上知つていて、だからモノに対する知識やこだわりは人一倍強い。

後年、憧れのイギリスの暮らしをテーマに本格的な執筆活動に入り、やがてはイギリスに拠点を持つまでになるわけだが、その過程で、暮らしを彩る「イギリスのモノ」についての興味が沸いてくるのは必然ではあった。



## 英式シンプルな自分スタイルの作り方

イギリスの手仕事が教えてくれた

ス

タイリストをしていた時代があ  
るそ�だ。

「ここに赤いブツがある  
と締まるんだけどな」

撮影でキメのショットをもたらすのは、モデルのプロポーションでも微笑でもなく、たいていは背景のちょっとした小物づかいであることを経験上知つていて、だからモノに対する知識やこだわりは人一倍強い。

後年、憧れのイギリスの暮らしをテーマに本格的な執筆活動に入り、やがてはイギリスに拠点を持つまでになるわけだが、その過程で、暮らしを彩る「イギリスのモノ」についての興味が沸いてくるのは必然ではあった。

中国産の安価な大量生産品の大